

3章

〈最新版〉グローバルな仕事30

「グローバルな仕事」として今を代表する30職種について
できるだけ最新の情報を取り入れながら、ジャンル別にまとめた。
数年後には、この数倍の職種がリストに加わるかもしれない。

多岐にわたる職種に目を向け、世界を視野に入れた進路を考える資料として活用していただきたい。

取材・文／伊藤敬太郎(24～27p、30～33p)　いのうえりえ(28p～29p)



国際派ビジネスパーソンとして働く 24

商社営業／外資系企業社員／メーカー海外営業／渉外弁護士(国際弁護士)
ブリッジSE／海外プロジェクトエンジニア [Interview]鹿島建設株式会社



国際貢献・国際交流のために働く 26

国連職員／外務省職員／青年海外協力隊員／ジャーナリスト・カメラマン
NPO・NGOメンバー [Interview]国境なき医師団 薬剤師
国際機関、外務省所管の独立行政法人、NPO・NGO



外国語を使って働く 28

キャビンアテンダント(客室乗務員)／グランドスタッフ／通訳ガイド(通訳案内士)
通訳者／翻訳者／ホテルスタッフ [Interview]ホテルニューオータニ



センスを生かして国際的に働く 30

映画プロデューサー／Webデザイナー／ファッショングザイナー／バイヤー
ダンサー／CGクリエイター [Interview]モデリングスーパーバイザー



手に職をつけて海外で働く 32

和食・寿司職人／シェフ・パティシエ／美容師／ツアーガイド
初生雑誌別師／日本語教師 [Interview]日本語教師

商社営業

世界を股にかけて商品の取引ルートを開拓する仕事

よく「原子炉からラーメンまで」といわれるよう、ありとあらゆる商品や原材料に関して、世界中を股にかけて、売り手と買い手を結びつけるのが商社の仕事。その業務を担うのが営業職だ。商社は一般に、様々な商品、サービスを扱う総合商社と食品など特定の分野の商品のみを扱う専門商社に分類されるが、いずれにしても個々の営業職は、特定の分野の商品を専門的に扱うケースが多い。

典型的な仕事内容は、例えば、顧客であるメーカーが製品の原材料を求めている場合、海外の原産地をあたり、品質、価格などを考慮して、取引をまとめる。直接現地に出張して視察やリサーチを行ったり、商品・原材料の安定供給のため現地の生産・物流のシステムを整備・管理したりするケースもある。海外駐在も多い。大手総合商社は社員の平均年収が1000万円超で、収入面も魅力。

>>なるには?

大学卒業後に商社に就職する。総合商社と呼ばれる企業は、三菱商事、三井物産、伊藤忠商事、住友商事、丸紅、豊田通商、双日の大手7社。専門商社には中小企業も多い。人気企業は競争倍率も高くなるため、学生時代からTOEIC®テストでハイスコアを取得するなど語学力を磨いておくことが大切だ。

メーカー海外営業

メーカーの海外進出を最前線でリードする仕事

海外営業とは、自社製品を海外の企業に直接セールスしたり、海外の販売代理店と協力して海外マーケットを開拓したりする仕事。自動車メーカーや家電メーカーに代表されるように、国内需要の縮小にともない、欧米先進国や中国をはじめとする新興国に積極的に進出するメーカーが増えている今、ニーズも重要度も高い職種だ。働き方は企業によって異なり、基本的には日本にいながら、必要なときに海外に出張し、現地の代理店とのやりとりを中心に仕事を進めるタイプ、海外支社などに赴任し、現地で営業活動を行うタイプなどがある。外国人を対象に交渉やプレゼンテーションを行うため、高い英語力は必須。これも企業によって基準は異なるが、最低限TOEIC®テスト750点程度を求められる場合が多い。

>>なるには?

自動車、家電、アパレル、ゲームなど今や様々な分野のメーカーが海外市場の拡大を進めている。大学卒業後、これらの企業に就職するのが第1関門。大学の学部でいうと経済・経営・商などが関連性は深いが、その他の学部からでも就職は可能だ。希望どおり海外営業部門に配属されるかどうかは企業によるが、学生時代にTOEIC®テストでハイスコアを取得していればチャンスが広がる。

国際派 ビジネスパーソンとして働く

外国語を駆使し、グローバルに活躍する国際派ビジネスパーソンにあこがれる高校生はきっと多いはず。
外資系企業で働くか、国内のメーカー、商社などで働くか。
6つの選択肢を提案しよう。

外資系企業社員

会議や本社とのやりとりで日常的に英語が必要な企業も

外資系企業とは、外国資本が入っている企業のこと。外国企業の日本支社もあれば、日本企業の株を外国企業が取得して経営に参画するケースもある。後者の場合は日本企業との合弁企業となるが、51%以上の株を外資が取得していれば、経営の主導権は外資が握ることになる。持株比率や経営方針によって違いはあるが、外資系企業の一般的な特色は徹底した能力主義。なかでも、金融、IT、コンサルティングなどの業種では、実力さえあれば20代で年収1000万円以上も珍しくない。職場の上司や同僚に外国人がいるケースもあり、会議を英語で行う企業、社内文書をはじめ社内公用語が英語という企業もある。また、本社とのやりとりで英語が必要となることも、実績次第で本社で働くチャンスもある。一方で、ほぼ日本企業と変わらない職場環境の外資系企業もある。

>>なるには?

メーカー、金融、IT、コンサルティングなどのほか、最近では流通・小売、サービスなどの業種でも外資の進出が目立ち、就職先として人気の企業も多い。企業によって新卒入社時に一定の英語力を条件として課すところもあり、そのような企業を目指すなら、学生時代にTOEIC®テストでハイスコアを取得するなどの努力も必要だ。

ブリッジSE

中国など海外の開発チームと日本のIT企業との橋渡し役

日本国内のIT企業がシステム開発を行う際、コスト削減のために開発工程の一部を人件費の安い中国企業などに発注する「オフショア開発」が今やすっかり定着。ただし、システム全体の設計や開発プロジェクトの工程管理、品質管理などは日本の企業が行うため、海外のソフト会社との橋渡し役を務めるエンジニアが必要となる。それがブリッジSEだ。この役割は日本人SEが務める場合もあれば、発注先の現地人SEが務める場合もある。

日本人ブリッジSEに求められる能力としては、システム開発に関する技術に加えて、プロジェクトの管理能力、そして語学力が挙げられる。オフショア開発では中国企業への発注が多いため、英語に加えて中国語能力が要求されることも。相手国の文化や気質が日本とは異なるため、その点も配慮したきめの細かいマネジメントが求められる仕事だ。

>>なるには?

高校や専門学校、大学を卒業後、システム開発系のIT企業でエンジニアとして就職し、プログラマー、SE、プロジェクトリーダーとキャリアアップしてブリッジSEになるのが王道。企業や個人の能力による違いはあるが、目安として5年程度の開発経験は必要。

台湾、ベトナム、ドバイで大規模土木工事に従事

鹿島建設株式会社 土木技術者

入社後、5年間は国内で土木技術者として勤務していました。最初に参加した海外プロジェクトは台湾のトンネル工事で、2002年から2年間赴任しました。「若いうちに海外を見ておきたい」と自ら希望したのですが、ゼネコンでは海外赴任は特別なことではなく、多くの技術者が経験します。現地では日本人は私1人。赴任したら、まず現地オフィスを立ち上げ、現地のスタッフを雇用します。国内のプロジェクトでは一番下っ端でしたが、赴任先の仕事は工程管理、品質管理、コスト管理といったマネジメントですね。台湾のあとは、ベトナムの空港の工事に3年、続いてドバイ（アラブ首長国連邦）の新交通システム（モノレール）の工事に2年従事して7月に帰国したところです。ドバイでは10人以上の部下を抱えるコンストラクションマネージャーでした。海外の仕事のやり方は日本と異なり非常にビジネスライクなのですが、私にはそれが合っているんです。契約や交渉では苦労もしますが、同時におもしろさを感じています。次はアルジェリアに赴任する予定です。

涉外弁護士（国際弁護士）

キャリアを重ねれば数千万～1億円の年収も可能

企業活動に伴って発生する国際的な法律案件を専門的に扱う弁護士を涉外弁護士または国際弁護士という。外国企業が顧客の場合は、日本における会社設立、M&A（合併・買収）、契約、知的財産法務などに関して、日本の法律の専門家としてコンサルティングやサポートを行う。日本企業の海外進出を扱う場合は、外国の法律に精通していることが求められる。そのため、日本の弁護士資格に加えて、アメリカのロースクールに留学して米国弁護士資格を取得する涉外弁護士も多い（米国弁護士資格のみでアメリカの法律事務所に就職することも可能）。いずれにしても、英文契約書の作成、英語でのコンサルティングなど業務の主要な部分で英語が必要となるため、高い語学力は必須だ。

弁護士のなかでも高収入が期待できる分野で、新人の段階から1000万円以上の年収を得る例も珍しくない。キャリアを重ねた涉外弁護士は数千万円から1億円の高年収を稼ぐ。

>>なるには?

大学の法学部、法科大学院を経て司法試験に合格することが第1関門。弁護士資格取得後の第2関門が涉外法務を扱う法律事務所への就職だが、大手の場合は非常に競争率が高い。

海外プロジェクトエンジニア

外国でビル、橋、発電所などの建設に従事するエンジニア

国内の大手ゼネコン（建設会社）やプラントエンジニアリング会社（工場設備の建設などを行なう会社）では、海外のビル、橋、石油採掘施設、発電所などの建設を請け負うことが多い。その背景には、日本の建築関係の技術が国際的にも高い評価を受けていること、さらに、国内ではすでに社会全体のインフラ整備が進み、公共事業の件数が減少傾向にあるなか、国内企業が海外での事業に注力していることなどがある。開発途上国への政府開発援助（ODA）に参加する場合もあれば、現地政府などから直接発注を受ける場合も。日本企業の海外プロジェクトエンジニアは、現地で現場監督などのポジションで参加することが多い。赴任先は開発途上国から先進国まで幅広く、プロジェクトの規模や企業の方針にもよるが、1回の赴任期間の目安は2年程度。

>>なるには?

エンジニアとして、ゼネコンやプラントエンジニアリング会社への就職を目指すのであれば、建築・土木系、機械系、化学系などの学部・学科を卒業していると有利。前述のように海外での事業展開の比率を高めている企業が多いため、国内で数年経験を積んだあとなら、希望すれば海外赴任できるチャンスは大きい。

国連職員

世界全体の発展や安定のために働く国際公務員

国連職員とは、ニューヨークにある国際連合事務局や安全保障理事会などの国連主要機関、国際連合児童基金(UNICEF)などの補助機関、国際労働機関(ILO)や世界保健機関(WHO)などの専門機関で働く人たちのこと。職種は一般事務職から高度な専門職まで幅広いが、世界全体の発展や安定のために仕事をする点はどの職種にも共通する。外務省の発表によれば2007年末現在で国連システム全体の職員数は専門職2万5562人、一般職4万9720人。このうち専門職として働く日本人は約700人。国連事務局に絞ると2008年6月現在で113人(半数以上が女性)が働いているが、日本の国連への貢献度を考えると、望ましい人数は249~337人とされており、日本人の国連職員はまだまだ少ないといわれている。

>>なるには?

国連職員(専門職)は即戦力が求められるため、英語かフランス語で仕事ができること、修士号以上の学位、専門分野での実務経験が条件となる。まずは国内で専門性を磨くのが第一歩。国連で仕事を得るには、若手職員採用のための国連職員採用競争試験を受験する、空席公告を見て応募するなどの道がある。

国際貢献・ 国際交流 のために働く

開発途上国で貧困に苦しむ

人たちを助けたい!

世界の発展に貢献したい!

日本と世界をつなぐ役割を果たしたい!

そんな高校生の目標になる

5つの仕事を紹介。

青年海外協力隊員

政府が開発途上国に派遣する海外ボランティア

青年海外協力隊とは、政府が政府開発援助(ODA)の一環として開発途上国に国際協力の志を有する青年を派遣する海外ボランティア派遣制度のこと。実施団体は、外務省所管の独立行政法人国際協力機構(JICA)。対象となる年齢層は20~39歳で、農林水産部門(稲作・野菜栽培など)、加工部門(木工・金属加工など)、保守操作部門(電気・電子機器など)、土木建築部門(土木・建築など)、保健衛生部門(医師・看護師など)、教育文化部門(日本語教師など)、スポーツ部門(陸上競技や柔道など)の各部門で募集が行われている。任期は原則2年。生活費や渡航費などは支給される。派遣先では、現地のスタッフと協力しながら、各種の技術指導、教育・医療活動、啓蒙活動などに従事。学生のまま、あるいは所属先に身分を置いたまま参加することも可能だ。

>>なるには?

参加するには、技術試験や語学試験からなる選考に合格する必要がある。求められる専門性は、職種や派遣先からの要請内容によって異なるが、2~3年程度の実務経験が求められる場合が多い。専門資格が求められる場合もある。

外務省職員

国家間の条約交渉などの外交業務に携わる仕事

外務省の職員は、I種職員、専門職員、III種職員に大別される。いずれも職場は国内の本省や在外公館だ。国家間の条約交渉、政策立案、国際交流、現地の政治・経済・社会に関する情勢の調査といった外交業務を務めるのがI種職員と専門職員。III種職員は会計業務や秘書業務などに携わる。I種は「キャリア」と呼ばれる幹部候補。専門、III種はこれに対して「ノンキャリア」と呼ばれる。なお、専門職員の初任給は2009年4月1日現在で月額20万1474円。I種、専門は、海外で外交官として勤務する期間も長く、国際政治・法律・経済などの幅広い知識、担当する地域に関する専門知識、高度な語学力が求められる。英語、フランス語、ドイツ語、中国語といった言語以外にミャンマー語、ウルドゥー語など一般的にはマイナーな言語にもニーズがある。

>>なるには?

I種職員になるには国家公務員I種試験、専門職員になるには外務省専門職員試験、III種職員になるには国家公務員III種試験に合格することが必要。I種は超難関で知られ、国家II種相当の専門職員試験も合格率は1割程度。I種職員、専門職員が目標なら、大学2~3年頃から試験対策や語学の勉強を始めたい。

■国際的な仕事に携わることができる機関・組織例

○代表的な国際機関の例

上の4つは、国連とその関係機関。国連以外にも、アジア、環太平洋などの地域内の国々、あるいは先進国などが集まって構成している機関もある。OECDはその代表例。

国際連合	国連の主要機関は総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所、事務局の6つ。本部はニューヨークに設置されている。
世界銀行	正式名称は国際復興開発銀行(IRD)。現在は主に開発途上国を対象に、経済復興援助を目的とした融資を行う国連の専門機関。ワシントンD.C.に本部がある。
世界保健機関(WHO)	「すべての人々が可能な最高の健康水準に到達すること」を目的に世界規模で健康促進、病気の撲滅、感染症対策に取り組む国連の専門機関。本部はスイスのジュネーブ。
国際連合児童基金(UNICEF)	国連総会の補助機関。内戦・紛争地域の子どもたちへの緊急支援や「子どもの権利条約」普及などの活動を行う。日本をはじめ各国に現地事務所を設けている。
経済協力開発機構(OECD)	経済成長・開発国の経済発展・世界貿易の拡大を目的とした国際機関。先進国を中心に30カ国が加盟している。本部はパリに設置され、日本人職員も働いている。

○外務省所管の独立行政法人

以下に紹介するのは、日本政府による国際貢献活動や国際交流活動を実際に担っている独立行政法人。海外への人材派遣や各種イベント開催を手がける。

国際協力機構(JICA)	政府開発援助(ODA)の実施機関。青年海外協力隊のほかにも、技術協力専門家などの派遣、研修員の受け入れなども行っている。 http://www.jica.go.jp/
国際協力基金	海外との文化芸術交流や海外における日本語教育の普及などを目的とした独立行政法人。海外20カ国、22カ所に拠点を持つ。 http://www.jpf.go.jp/

○著名なNPO/NGOの例

NPO/NGOは、海外に本部がある国際的で大規模な組織から、数人のメンバーで構成されている小規模な組織まで様々。ここでは代表的な例を2つ紹介する。

国境なき医師団	緊急医療援助を主とする民間の国際的医療・人道援助団体。世界65カ国で医師や看護師らが危機に瀕した人々の救援活動を行う。 http://www.msf.or.jp
セーブ・ザ・チルドレン	子どもの権利を守ることを目的とした国際NGO。世界27カ国のそれぞれ独立した組織が連携して活動している。 http://www.savetchildren.or.jp

国境なき医師団に参加し スーダン南部の母子医療に貢献

国境なき医師団(MSF) 薬剤師

大学卒業後は薬剤師として病院に勤務していましたが、医療従事者としての原点に立ち返りたいという思いから、海外での医療援助活動に関心をもつようになりました。最初に参加したのは青年海外協力隊。27歳から2年間、パプアニューギニアで病院の医薬品のマネジメントを担当しました。医療インフラも輸送インフラも整っていませんし、現地スタッフには日本のやり方が通用しないので苦労しましたね。その後、国内で経験を重ね、英語力も磨いて、国境なき医師団(MSF)に参加。2008年11月から2009年7月までスーダン南部の電気も水道もない奥地に行きました。「母子保健プログラム」に参加し、医薬品・医療器具の管理と現地スタッフの育成を担当。感染症の流行や季節の変化に合わせて医薬品を適正に調達するのは難しい仕事でしたが、我々が赴いてから現地の出生率が上がったのはうれしいことです。海外で外国人の間で働くためには専門家としての自信とプライドが大切。この仕事を目指す皆さんは、ぜひピカ一の専門分野を作ってください。

ジャーナリスト／カメラマン

世界で起きていることを 現地で取材し、報道する仕事

世界各地で起きていることを現地で取材し、報道するジャーナリストやカメラマンも、日本と世界とをつなぐ重要な仕事の一つ。海外での取材活動を主とする報道関係者には、新聞社や通信社、雑誌社、テレビ局の社員として、一定期間現地の支局に駐在する特派員のほか、フリーのジャーナリスト、カメラマンがいる。

特派員の場合は、世界各国の主要都市に駐在。大手メディアのニューヨーク、ロンドンといった大都市の支局であれば10人程度が派遣されるケースもあるが、駐在員1人で現地スタッフを雇って活動しているケースも多い。フリーの場合は、新聞社、雑誌社などとのつど契約し、戦争や紛争が起きている地域、貧困などの社会問題が顕在化している地域、重大な事件・事故があった地域などに赴く。常時海外を飛び回っているジャーナリスト、カメラマンも多い。

>>なるには?

海外特派員は、各新聞社、通信社、テレビ局などに就職することが第1目標。国内で十分な経験を積んだあと、本人の希望・適性などを考慮して海外に派遣されることになる。英語に加えて、中国語などの第2外国語をマスターしておくとチャンスが広がる。フリーは、新聞社や出版社で経験を積んでから独立するケースが多い。

NPO/NGOメンバー

国際交流や国際貢献のための NPO/NGOで活躍

NPO(Non-Profit Organization)とは、広い意味では公益的な活動を行う非営利団体のこと。日本では、特定非営利活動促進法に基づいて都道府県や行政府の認証を受けた団体をNPO法人(特定非営利活動法人)と呼ぶ。NPOのなかには、国際交流や国際協力を目的とした団体も多い。「国境なき医師団」のように海外に本部があり、世界規模で活動している団体もある。NGO(Non-Governmental Organization)は、国際協力に携わる非営利組織のことで非政府組織と訳されることが多い。これらの団体では、主に開発途上国を対象に教育・医療などのインフラ整備や人的支援を行ったり、外国人と日本人との交流事業を手がけたりしている。団体の職員として働く場合もあれば、その団体が募る人的支援のメンバーとして有期契約で現地に派遣されて働くケースもある。

>>なるには?

NPO/NGOの職員はそれぞれの団体で随時募集している。団体によっては語学力などが求められる場合も。こうした団体や一般企業で社会人経験を重ねた後、自らNPO/NGOを設立することも可能だ。また、現地に派遣される専門スタッフを目指すなら、まずは国内で医療や教育などの分野で経験を積む必要あり。

キャビンアテンダント(客室乗務員)

航空機内の乗客サービスと安全確保が重要な仕事

航空会社によっては「フライトアテンダント」ともいう。フライト前に設備や備品のチェックを行い、搭乗降の案内、ドリンクサービス、食事サービスなど、乗客が航空機内で快適に過ごせるようサービスに務める。万が一、機内でトラブルや緊急事態が発生した場合、保安要員として乗客の安全を第一に考え誘導し、消火、救護活動なども行う。常に安全面への注意力、冷静な判断力、対応力が求められる、責任ある仕事だ。勤務体制が不規則で、かつ1万メートル以上の上空が職場となるので、体力的にも精神的にも重労働。日系外資系各社で異なるものの、語学力の目安は英語の場合、TOEIC®テスト600点以上、少なくとも外国人利用客とコミュニケーションできる英会話力は必要だ。また、雇用スタイルとして正社員ではなく、契約社員として採用し、4年目から正社員とする航空会社も増えている。契約社員時の年収は約300万円～。正社員で500万円以上が目安だ。

>>なるには?

航空会社へ就職し、研修後、フライト経験を積む。採用試験は狭き門のため、英語力が身につく大学の外国語学部へ進学し、キャビンアテンダント受験のための専門学校へ通う人も多い。

通訳ガイド(通訳案内士)

語学力だけでなく、日本の歴史文化などの知識と、気配りが必要

外国人を日本各地へ案内し、文化や伝統、生活習慣などを外國語を使って紹介する仕事。日本をよりよく理解してもらうための、「民間外交官」として重要な役割を担う。快適な旅行を楽しんでもらうため、旅行スケジュールの確認や宿泊先の手配、買い物のアドバイスなどあらゆる場面でエスコートも行う。従って、外国人とスムーズにコミュニケーションできる語学力だけでなく、日本の地理や歴史、産業、経済、文化など幅広い知識と、きめ細かな心配りも必要となる。

>>なるには?

「通訳案内士」という国家資格が必須。合格したら、都道府県に氏名、住所などを登録する。この手続きなしに通訳ガイドの業務を行うことは違法になる。受験資格は不問。試験科目は英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国語など計10カ国語。独学よりも資格取得のための専門学校へ通う人が多い。都道府県に登録後、各自治体の観光協会や旅行会社へ就職したり、旅行会社と契約して働く道もあるが、通訳ガイドのほとんどが日本観光通訳協会などに登録し、仕事を斡旋してもらうフリーランス。1日のガイド料は1万5000円～2万円が目安。

外国語を使って働く

翻訳・通訳、ホテルスタッフ、

キャビンアテンダントなど、

国内でも外国語を使って働く仕事はいろいろある。

特に観光やビジネスで日本を訪れる外国人が

近年増えていることもあり、

コミュニケーションスキルとして、英語力のある人材を求める職種もさらに広まっていく気配だ。

グランドスタッフ

予約・発券、インフォメーションなど空港内で様々なサービスを提供

空港のチェックインカウンターで、乗客サービスに携わっているのがグランドスタッフ。旅客案内や予約・発券業務をはじめ、搭乗案内を行うゲート業務、乗客荷物のケアをする業務、未搭乗の旅客を探すトラフィック業務、改札業務、空港内でのインフォメーションなど仕事内容は幅広い。最近は外国人利用者も増えているため、英語力は必須。英検2級以上、TOEIC®テスト550点以上が目安。アジア圏の語学力があると有利。さらに、語学力はもちろん、接客能力やエアラインの知識も求められる。シフト制で勤務が早朝・深夜に及ぶこともあり、体力も必要な仕事だ。

>>なるには?

最初からグランドスタッフを目指し、高校卒業後、エアライン系専門学校へ進む人も。大学・短大に在籍しながら受験対策として専門学校へ通い、接客や航空関係の基本的な専門知識を得る人も多い。航空会社の自社採用もあるが、グランドスタッフの場合、募集するのは、航空会社が設立した別会社、あるいは業務委託を受けている関連会社が多いようだ。正社員採用で初任給は18万円前後からが目安。給与は大都市周辺の国際空港か、あるいは地方空港か、それと各社によってばらつきがある。

翻訳者

語学力に加え、医学や法律、IT技術などの専門知識が求められる

実用書や小説、エッセイなど、原文の内容に合わせて適切な日本語の文章に訳すのが翻訳者。出版翻訳、映像翻訳、産業翻訳などジャンルは多岐にわたる。基本的にフリーランスで活躍する人が多い。出版翻訳とは、書籍を1冊翻訳したあと、その定価や発行部数に応じて著作者に支払われる印税として、収入を得ることになる。映像、ビジネス翻訳はエージェントに登録して、仕事を得ている人がほとんど。どの分野を専門にするか、翻訳者としてどれだけの実力があるかによって、収入に大きな差がある。翻訳者に必要なのは、英語の読解力、理解力と同時に日本語を書く力。関わる分野によっては相当深い専門知識も求められる。最近はビジネス翻訳、なかでも医学・医薬関連の知識をもつ翻訳者、法律、IT技術関連が理解できる翻訳者ニーズが高まっている。

>>なるには?

翻訳スクールで学ぶのが近道。学校の講師を通してレベルに応じた仕事を回してもらい、経験を重ねながら実力を身につけることができるからだ。他人の評価によって自分の文章を客観的に見ることができるようになるのもスクールの良さ。必須資格はないが、日本翻訳連盟主催のJTFほんやく検定の取得を目指すのも手。

通訳者

専門知識をもって通訳できるビジネス通訳者のニーズが高い

逐次通訳と同時通訳がある。逐次通訳は話をある程度聞いてからまとめて訳すので、話者と通訳者が交互に話すことになる。同時通訳は、外国語での会議や外国人へのインタビューの際、相手が話すと同時に通訳し、口語で伝える。いずれも、海外企業との商談、テレビの二カ国語放送、国際イベント、セミナーなど様々な分野で活躍できる。最近、日本企業の海外進出や国内での外資系企業の増加に伴い、ニーズが高いのは専門性の高い同時通訳者やビジネス通訳者。ある分野に特化した専門知識、情報力も求められている。語学力は英語の場合、英検1級、TOEIC®テスト900点以上が目安。通訳者はランクと仕事内容による料金設定で1日数万円から10万円前後とかなりばらつきがある。

>>なるには?

特に必要な資格はないが、語学力、スキル習得のため、通訳者育成の専門学校へ通い、学校を通じて自分のスキルに応じた仕事を獲得し、経験を積むパターンが多い。

国際会議運営会社や派遣会社等に登録し、フリーランスで活躍するほか、社内通訳者として、また英文事務や秘書業務の一環として通訳をする人も多い。

ホテルスタッフ

外国人客の要望に応えられる語学力が求められる

ホテルの利用者が快適に宿泊できるよう、様々なサービスを提供する仕事。その内容によっていくつもの専門職に分かれている。例えば、ホテルのエントランスでお客様を迎えるドアマンやドアガール、ベルスタッフ、当日のチェックインを担当するフロント係、ロビーでチケット手配や観光案内などきめ細かな対応をするコンシェルジュ、各レストランのホールで接客するウエイター、ウエイトレスなど。特に英語力が必要なのは、外国人宿泊比率の高い首都圏や京阪神、また国際空港周辺のホテル。採用条件として、英検、TOEIC®テストなど具体的な資格を表記していないても、外国人客の要望にきちんと対応できる程度の語学力は求められる。最近は中国や台湾などの訪日客も増えていることもあり、英語プラス中国語など、複数の外国语が話せると、より活躍の場も広がる。

>>なるには?

ホテルに正社員もしくは契約社員として就職する。面接では、語学力だけでなく、コミュニケーション能力やホスピタリティ精神があるかどうかなどが評価される。ホテルスタッフの初任給は、大卒で19万円くらいから。海外にグループホテルを展開しているホテルならキャリアを積んで、海外勤務する可能性も大だ。

英語力にコミュニケーション能力、そして温かさが必要

ホテルニューオータニ ニューオータニクラブセンター

ニューオータニクラブセンターは、会員のお客様の快適なホテルライフをサポートするメンバークラブ。専属スタッフとして会員様のチェックイン＆チェックアウトから、館内インフォメーション、新幹線チケットや興業チケットの手配など細かなご要望に対して、幅広くサポートしていくのが仕事です。「大谷さんがいると安心」といっていただけるのが何よりうれしいので、安心してくつろいでいただけるサービスを心がけています。ホテルの1日のお客様の約半数、また会員様の約3割が外国人の方なので、英語力はマストアイテム。私の場合、高校時代、英検準1級取得のために勉強したことと、海外留学生や帰国子女の多い上智大学外国语学部に在籍したことが、今になって役立っています。でも、英語力プラスα何かできるとよかったです。例えば最近はアジアからのお客様が多いので中国語、韓国語などが話せるとか。それによってさらに上質なサービスをご提供できるからです。ただし、コミュニケーション能力をお客様大事に思う気持ちがなければ、語学力も生きてこないと思います。

映画プロデューサー

海外マーケット開拓など 仕事の舞台はグローバル

映画の企画の立ち上げ、スポンサーの確保、監督をはじめとするスタッフやキャスト選定、ロケ地の選定、制作準備から興行に至る各工程における調整や管理、資金の管理などが、映画プロデューサーの主な仕事。これらの一連の仕事を1人で担当する場合もあれば、複数のプロデューサーが役割分担して行う場合もある。大手・中堅の映画会社の社員として活躍するプロデューサーも多いが、最近では、独立系のプロデューサーも増えてきている。映画には海外との共同制作の作品も多く、その際、現地で共同プロデューサーを探したり、現地の映画制作会社に企画を売り込んだりするのもプロデューサーの仕事。また、アニメをはじめとする日本の映画作品が海外でも注目されている今、制作した作品を海外の配給会社に売り込み、海外マーケットを開拓するのも重要な仕事になっている。

>>なるには?

映画制作会社に就職し、プロデューサーのアシスタントとして働きながら映画制作や映画ビジネスについて学ぶのが王道のステップ。ただし、プロデューサーへの道は一定ではなく、監督志望からプロデューサーになる例もあれば、商社など他業種のビジネス経験を生かして転身する例もある。実力次第で独立も可能な職種だ。

ファッションデザイナー

ショーやコンテストを通じて 世界にアピールする方法も

高田賢三、三宅一生、山本耀司、山本寛斎など、ファッションデザインは世界的に活躍する日本人を早くから輩出してきた分野。ファッションの流行は、パリ、ローマ、ミラノ、ロンドン、ニューヨークといった国際的ファッション都市を発信地として世界的なスケールで形成されている。こうした流行発信地では、常に欧米文化外の新しい刺激が求められていることもあり、優れた才能・センスをもつ日本人デザイナーが世界を舞台に活躍するチャンスはあるのだ。

海外で活躍する道の一つは、海外の有名ブランドへの就職。その場合は、語学力は当然として、現地の若手デザイナーを上回るセンスや個性、さらに縫製などの高い技術が必要だ。また、最近では、国内で自らインディーズブランドを立ち上げ、ショーやコンテストなどを通じて海外で評価される若手デザイナーも登場している。

>>なるには?

国内の服飾系専門学校で学ぶほか、欧米のファッションスクールに留学して世界に通用するファッションを学ぶ道がある。有名校で学んだ実績は海外ブランドに就職する際には有利だ。デザイナーとして世界に名前を売るには、国際的に注目されるコンテストやファッションショーなどに出品し、高い評価を受けるのが王道のステップ。

センスを生かして 国際的に働く

クリエイティブワークの分野は
国籍・国境を越えて実力で勝負できる世界。
そのほかにも、自分の「センス」を
生かして世界を舞台に活躍できる
仕事はいくつもある。
その代表的な例を紹介しよう。

Webデザイナー

アメリカのデザイン単価は 日本の約1.5倍

HTMLをはじめとする技術を用いて企業などのWebサイトを制作する仕事がWebデザイナー。Webデザインには言語が関係するため、日本人の海外進出には向かない職種と思われがちだが、逆に言葉の壁さえクリアできればチャンスはある。クリエイター専門の人材エージェントであるクリーク・アンド・リバー社によれば「グラフィックデザイナーも同様ですが、日本人の繊細なデザインは海外で評価が高い」とのこと。現にアメリカなどで活躍するWebデザイナーも決して少なくない。アメリカに関していえば、クリエイティブの現場は完全に実力主義。また、日本以上にクリエイティブワークが尊重される傾向があり、「デザインの単価は日本の約1.5倍。日本ではうやむやになりがちな修正費用もきちんと支払われます」(同社)という。その点でもデザイナーにはやりがいのある環境だ。

>>なるには?

Webデザインは、専門学校や大学、民間のスクールで学ぶことができる。国際レベルのWebデザインを学ぶのであれば、アメリカのトップクラスのアーツスクールに留学する道も。卒業後1年間はインターンシップで比較的容易に現地で働くことが可能。正規に就職するには、アメリカ人デザイナーに負けないスキルが必要となる。

ダンサー

日本人ダンサーの海外での活躍は年々目立っている

バレエ、ヒップホップ、タップダンス、ジャズダンス、ラテンなど、クラシック系からストリート系までダンスのジャンルは幅広いが、それに欧米で活躍している日本人ダンサーがいる。エンターテインメント系では、マドンナのワールドツアーにバックダンサーとして参加したKento Mori、アメリカのパフォーマンスグループ「ザ・ムーブメント」で活躍するTAKAHIROなど有名。また、バレエでも、ロシアのボリショイ劇場でソリストを務める岩田守弘をはじめ、海外のカンパニーで活躍する日本人は増えている。ダンスカンパニーに所属する場合もあれば、フリーで活躍する例も。いずれにしても実力勝負の世界。現地でオーディションを勝ち抜けるレベルの実力があって初めてスタートラインに立つことができる。

>>なるには?

学歴・資格は一切不問の世界。ただし、ダンスについては、日本のダンススクールか、欧米へのダンス留学で、基礎から体系的に学ぶ必要がある。プロのダンサーのなかにはクラシック系からストリート系まで幅広く学んでいる人も多い。実力を磨いてから海外に渡り、カンパニーのオーディションを受けるか、エージェントに登録して作品ごとのオーディションを受け、チャンスを狙う。

バイヤー

海外の雑貨や服などの商品を自分のセンスでセレクト

デパートや小売店で仕入れ商品の選定や買い付けを担当するのがバイヤー。輸入雑貨や輸入服などのセレクトショップ(特定のブランドだけを販売するのではなく店のセンスで品ぞろえを決めるタイプのショップ)などの場合は、バイヤーは世界各国を飛び回り、現地のショップや問屋で直接商品を吟味して買い付けを行う。扱う商品に関する幅広く深い専門知識や価格の相場に関する知識、売れ筋の商品を見極めるセンスが求められるため、雑貨、大人服、子ども服、おもちゃ、美術品などジャンルごとに専門分化されている。デパートや大手小売店の買い付け部門に勤務するケースもあれば、輸入雑貨店の経営者として自ら買い付けを行うケースも。また、フリーで活躍することも可能な職種だ。買い付け先と良好な関係を築いたり、有利な価格交渉を進めたりするうえでも語学力は重要。

>>なるには?

デパートや大手小売店、輸入雑貨店、輸入アパレルショップなどに就職することが第1ステップ。すぐに買い付け部門に配属されるとは限らないが、売り場等での経験も後々バイヤーの仕事には生きてくる。バイヤーとして経験を重ねれば、フリーになったり、自分のショップを開いたりするチャンスも見えてくる。

ハリウッド大作映画のVFX(視覚効果)などに携わる

Hydraulx モデリングスーパーバイザー

28歳のとき初めてMacを買って、友人のプロスノーボーダーのプロモーションビデオを個人的に作ったのがきっかけとなり、CGクリエイターへの転身を決意しました。当初から映画の本場であるアメリカで働きたいと思い、30歳で専門スクール・デジタルハリウッドの米国サンタモニカ校DHMIA(現在は閉校)に留学。卒業後、現地の映像制作会社でインターンとして働き、その会社から就職のオファーをもらいました。外国人なのでビザや英語力の問題がありますが、それでも会社に必要だと思われるだけの人材になるため必死で技術力とセンスを磨きました。現在は、HydraulxというVFXスタジオで、モデリングスーパーバイザーという肩書きで働いています。最近かかわった作品は『ベンジャミン・バトン』など。映画のプロジェクトは規模も大きく、世界中で公開されるので、クレジットに名前が載ることにとてもやりがいを感じますね。現場では英語力の必要性を痛感します。海外就職を目指すなら、高校時代から英語力を強化し、大学で専門知識を学ぶよいと思います。

CGクリエイター

映画の本場ハリウッドで活躍する日本人も!

映画、アニメ、テレビ番組、CM、ゲームなどで使用される3DCGを制作する仕事。今や実写の映像作品でもCGを使用したVFX(視覚効果)が一般的に使われており、CG合成に特化したクリエイターはVFXクリエイターという。その技術は世界共通であり、クリエイターを養成するデジタルハリウッド大学によると、「映画制作の本場ハリウッドをはじめ、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアなどで働く日本人クリエイターが増えています」という。日本でCGクリエイターとして活躍できるスキルがあれば海外でも通用するが、高い英語力が必須だという。アメリカ、カナダ、ニュージーランドなどクリエイターの地位が比較的高い国では、日本より高収入が期待できる。

>>なるには?

アメリカの場合、H1Bビザ(就労ビザ)取得には、大学卒業資格、大学での関連分野の単位があると有利。加えて実務経験もほしいところ。就職には、企業のホームページや現地の求人サイトから応募する、CGの祭典「SIGGRAPH」などのイベントに作品と履歴書を持参のうえ、参加し、出展企業の採用担当者にアピールする、などの方法がある。

和食・寿司職人

欧米や新興国の日本食ブームで海外の日本食レストランが増加

寿司、刺身、会席料理、天ぷら、そば、うどんなどを提供する海外の日本食レストランは、今や2万～2万5000店と推計されている。欧米の料理とは異なる繊細な味わいやヘルシーさが受け、北米、ヨーロッパ、オーストラリアのほか、最近はブラジル、ロシア、インド、中国といった新興国でも日本食がブーム。それに伴い、本場日本で刺身、握り、焼き物、煮物、汁物、蒸し物、和え物など日本の伝統的な調理技術を磨いた日本人職人へのニーズが高まっている。国内以上に成長が期待できるジャンルで、職場環境も国内と比べると自由かつ実力主義の傾向が強いため、チャンスを求めて海外へ渡る職人は近年増加傾向。収入は、国や店、さらに実力・経験によるが、板前以上の若手職人であれば月収20～30万円程度が一応の相場。実績を積んで自分の店をもてば高収入を得ることも可能だ。

>>なるには?

国内の日本料理店、寿司店に就職して見習いからスタートし、技術を磨いてから渡航するのが一般的。就労ビザは比較的取りやすい職種だ。海外で即戦力として働くには5年程度の経験は必要だが、最近は、短期間で寿司の技術を学べるスクールもある。顧客とやりとりできる語学力も渡航前に磨いておきたい。

手に職をつけて海外で働く

日本で磨いた日本人ならではの技術、あるいは留学などで習得した国際水準の技術を生かして、海外で活躍する日本人は多い。今、海外でのニーズや成功のチャンスがある手に職系職種を6つピックアップ。

美容師

日本人が多く在住する地域では日本人美容師へのニーズが高い

海外で活躍する美容師は決して少なくない。理由の一つは、世界各国で暮らす日本人客からのニーズがあること。特に現地でのコミュニケーションに慣れていない留学生などは現地のサロンでカットすることに抵抗がある場合が多く、日本人が多く住む地域では日本人美容師に対する安定したニーズがある。もう一つの理由としては、ヘアファッションの本場であるロンドン、パリ、ローマ、ニューヨークなどで腕を磨きたいと考える美容師が多いことが挙げられる。仕事内容は日本で働く場合と大きな違いはない。ただし、給与に関しては、日本では給料制がメインなのに対して、海外では歩合制が多い。実力勝負の世界なので、多数の指名を得る売れっ子になれば高収入を得ることも可能だ。また、最近では、日本人を対象にした海外ウエディングサービスを提供する会社などでもニーズがある。

>>なるには?

海外の美容室で働くためには国内での実務経験が求められるケースがほとんど。5年程度の経験を積んでから渡航するのが一般的なパターンだ。日本人向けメディアやWebサイトなどに現地美容室が求人を出していることが多い。また、現地の美容師資格取得も必須。そのためにも語学力は事前に磨いておく必要がある。

シェフ／パティシエ

海外で自分の店を経営するシェフやパティシエもいる

フランス料理やイタリア料理などのシェフ、またはケーキやショコ菓子、マカロンなどを作るパティシエ（洋菓子職人）として、海外のレストラン、パティスリー（洋菓子店）で働いたり、海外で自分の店を経営したりしている日本人も少なくない。例えば、フランス料理の本場パリにも、日本人シェフが腕を振るうレストランがいくつもあり、ミシュランで星を得るなど高く評価されている店もある。ニューヨーク、パリなどの国際都市のほか、最近ではアジアで出店する例も増えている。フランス料理やフランス菓子などは、高度な調理技術とともに味・見た目の独創性も求められる分野。それだけに、実力と才能が認められれば、国籍に関係なく活躍するチャンスがある。修業時代の月収は十数万円だが、一流と認められれば高収入を得ることも可能な職種。

>>なるには?

国内の調理専門学校、製菓専門学校で学ぶほか、本場の専門学校に留学する方法もある。また、留学やインターンシップのプログラムを設けている国内の専門学校もある。ただし、学生ビザで労働できる期間は限られるので、その後、国内で経験を積んで、改めて渡航し、本場の有名店に弟子入りする例も多い。

初生雛鑑別師

欧米でも高いニーズがある ヒヨコの雌雄鑑別の専門家

養鶏場での鶏の飼育方法は雌雄で異なる。しかし、卵からかえったばかりのヒヨコは外見だけでは雌雄の見分けがつかず、特殊な鑑別技術が必要。なかでも普及しているのが、肛門を開いて生殖突起の有無や形状を指で確かめる肛門鑑別法で、初生雛鑑別師はその専門家。社団法人畜産技術協会が養成と資格認定を行っている。この技術は日本で発見され、今では世界に普及しているが、手先の器用な日本人鑑別師はスピード、正確さ(鑑別率99.5%)いずれの面でも非常にレベルが高いため、欧米など外国からもニーズがある。鑑別師の海外派遣は全日本初生雛鑑別師協会が斡旋しており、現在はアメリカ、フランス、ドイツなどに約70人が派遣されている。鑑別師の平均年収は500万~600万円だが、海外では、現地の状況、為替レートの変動などで異なる。

»なるには?

畜産技術協会が名古屋市に鑑別師養成所を設けている。満25歳以下、高校卒業以上の学歴、視力1.0以上などの入所資格がある。入所試験に合格後は4月から8月まで養成研修を受け、その後、現場で2~3年の鑑別研修を受ける。高等検査に合格すると、プロとして活躍できる。

ツアーガイド

海外の観光地に在住し、 日本人観光客を案内する仕事

ツアーガイドとは、旅行客に対し、観光地を案内する仕事のこと。海外で日本人が現地ツアーガイドとして働く場合は、基本的には現地に滞在し、主に日本人旅行客を対象にガイドを行う。働き方としては、国内の旅行会社の社員として現地支店に勤務するパターンと、現地のガイド会社などに登録するパターンの2つがある。仕事は、観光案内のほか、宿泊や移動、オプショナルツアーの手配なども含まれる。現地の観光スポットや歴史に関する知識、現地で十分なコミュニケーションを取ることができる語学力、ツアーカーをもてなすための細やかな気配りなど幅広い能力が求められる職種だ。

»なるには?

ツアーガイドになるためのステップの一つは国内の旅行会社への就職。この場合、必ずしも希望する地域の支店に勤務できるとは限らないが、語学力などを磨いておけばチャンスは広がる。現地のガイド会社などに登録して働く場合は、オーストラリアやニュージーランド、カナダなどではワーキングホリデーを利用すると就労しやすく、そのための短期研修プログラムもある。ただし、就労期間が1年間に限られるため、継続的にツアーガイドとして働くなら、語学力・専門性を高め、就労ビザを取得することが必要。

日本語教師

海外の日本語学校で 現地の人たちに日本語を指導

外国人や外国に在住する日系人に対して日本語を教える仕事。教える対象は、日系人家庭の子どもたちや、日本への留学を希望する学生、日本とのビジネスに活用したい社会人まで幅広い。日本国内の大学や日本語学校などで教えるケースもあれば、欧米、アジアなど海外の日本語学校で教えるケースもある。資格が必須の仕事ではないが、海外の日本語学校の募集では、日本国内と同様、大学を日本語教育主専攻・副専攻で卒業、日本語教育能力試験合格、420時間の専門学校卒業などのうちいずれかを満たしていることが条件とされていることが多い。現地の小学校・中学校・高校で教える場合は現地の教員免許が、大学で教える場合は日本語教育関係の修士以上の学歴が求められる。英語や現地の言語を習得しているとベターだが、授業自体は日本語で行うことが多いので、必須ではない。

»なるには?

最近では、教育学部、文学部などに日本語教育関係のコースを設けている大学が増加。専門学校や民間のスクールでも日本語教師を養成するプログラムは多数。海外の就職先はこれらの教育機関で斡旋してくれる場合も多い。専門の斡旋機関もある。